

○シリアの大司教、「シリアの子供たちはイエスが生まれた馬小屋を羨望の目で見ている」○

マドリー、2013年12月17日 (Zenit.org)。

「シリアでは馬小屋のイエスには大勢の仲間がいます。家をなくした何千という子供たちが、ベトレヘムの馬小屋のような貧しいテントで生活しているからです」。これらの言葉でダマスカスの大司教 Samir Nassar 師はクリスマスメッセージの中で、降誕祭を前にしたシリアの子供たちの現状を描いた。



通信社 Fides によって伝えられたこの悲痛なメッセージで、マローン典礼の大司教は戦争の中で三度目の降誕祭を迎えようとしているシリアの多くのキリスト教徒の気持ちを表した。「見捨てられ暴力によって心に深い傷を負ったシリアの子供たちは、いつも両親とともにいて両親に抱かれ愛撫されている幼子イエスをうらやましく思っています。(・・) 生まれるために馬小屋を見つけたイエスを羨む者もいます。なぜなら、かわいそうな子供たちの中には、爆弾の下で、あるいは逃げまどう中に生まれた者もいるからです」

さらに続けて、「馬小屋の聖母ももう一人ぼっちではありません。無数の不幸な母親が究極の貧しさの中に生き、夫なしに独りで家族を支えています。・・聖家族の中で静かにたたずむ聖ヨセフの姿は、父親を失った何千という家族には一種のねたみを引き起こします。父親がいないことで、恐怖や苦悩や不安の中で暮らしています」。

ナッサル大司教は、このシリア国民の不幸な状況では、クリスマスの平和と喜びの約束は縁のないものに思われると言う。「まるで地獄から出るような戦争の騒音は、天使の栄光の賛歌をかき消し、クリスマスの歌声は憎しみと残虐行為を前にして閉め出される」

ダマスカスの大司教は、しかしながらまさに「戦争の長期化により希望を失いかける中（もう千日以上にもなる）、馬小屋を前にキリスト信者の「主よ、私たちに耳を傾けてください」という祈りと希望の叫び声はよりいっそう強くなっています」と結んだ。

○苦しむ教会への援助、ナイジェリアのキリスト教徒を支援するキャンペーン○

マドリー、2013年12月17日 (Zenit.org)。

ナイジェリアのキリスト教徒は、信仰を守るだけで迫害を受ける。というのは、「ボコ・ハラム（「西欧の教育は罪」という意味）は国中にシャリア（イスラム法）を押しつけようとするからだ。これらのテロリストたちはカトリック教会、福音派の教会、イスラム教ではない政府、警察、軍隊、大学、銀行などを襲っている。

カトリックの国際的慈善団体「苦しむ教会への援助」のスペインの事務局長ハビエル・メネンデス・ロスによれば、「ナイジェリアはキリスト教徒にとって最も危険な国です。2011年だけでパキスタン、シリア、エジプトを合わせたよりも多くのキリスト教徒が殺されました。ナイジェリアで殺害されたキリスト教徒は、世界で殺害されたキリスト教徒の70%になります」

2011年以降、800人前後が殺され、400以上の教会が攻撃を受けた。多くの信者は日曜日にミサに行くのは命がけであることを知っている。実際、イスラム過激派の行ったテロで最も被害の大き

かったものの一つが、12月25日降誕祭に起こったものである。メダイの聖テレジア教会でミサにあ  
ずかった信者たちが教会から出たとき、車に積まれていた爆弾が爆発し45人が死に、81人が負傷し  
た。

あの日、チオマ・ディケは夫と三人の息子を失った。彼女が助かったのは、自宅に残ってクリスマス  
の食事を準備していたからだ。彼女は言う。「私の心はずたずたです。すべてを主の御手にゆだねます。  
私を慰めることができるのは神様だけです。神への信仰は決して失いません」

他方、ナイジェリア人司祭 **kenneth Iloabuchi** は記者会見で次のように表明した。「テロ事件の翌日、  
信者たちは教会に戻ってきました。そして、犯人を赦すことを表明し、すべてを神の御手に委ねました。  
彼らは自分の信仰にしっかり踏みとどまっています。それはナイジェリア国民全員にとって希望の証で  
す」

ナイジェリアのキリスト信者たちは、敵を赦し、平和な国を作ることを望んでいる。キリスト教徒の  
共同体はイスラム教徒との平和共存しようと努力している。彼らは教会が再建されること、そして司祭、  
カテキスタ、神学生などを必要としている。・・このために、「苦しむ教会への援助」はこのクリスマス  
にナイジェリアのキリスト教徒を助けるためのキャンペーンに乗り出した。

聖座のこの組織は、神学生対象の奨学金を充実させたいと思っている。というのは、ナイジェリアは  
アフリカの国々では最も神学生の多い国で、5千人以上の神学生がいるからである。これらの若者は、  
テロ事件の犠牲になった多くのキリスト信者の傷を癒やすのを手伝うために司祭になりたいと思っ  
ている。

神学校は満員である。ジョスの聖アウグスチヌス神学校は過激派の脅迫を何度も受けている。しかし  
ながら、若者たちは恐れない。「私たちは司祭になりたいのです。ナイジェリアでは、過激派は暴力の  
道を進み続けていますが、私たちは主の道を進みたい」と327人の神学生の一人 **Hezekiah Kovona**  
は言い切る。

「苦しむ教会への援助」は司祭が和解と共生のための真の道具であることを知っている。彼らのおか  
げで、キリスト教徒たちは信仰を守り、攻撃に対して赦すことができた。ただ、司祭がその仕事を続け  
ていけるために経済的支援が必要である。

同様にカテキスタたちは農村部に福音を伝えている。ナイジェリアでは、カテキスタは二年の養成を  
受けてから小教区に派遣され信者たちに秘蹟を受ける準備をさせる。その大部分は一般信徒で、とても  
献身的な人々である。カテキスタになるための養成を受けている女性の一人、マーガレットは「女性は  
教会のためにもっともっと働けると思います。私にとってこれは福音を伝え、人々を神様に近づけるこ  
とを助けるすばらしい機会です。平和のない世界に平和を運びたいです」と言う。

「苦しむ教会への援助」はボコ・ハラムのテロリストたちによって破  
壊された教会や礼拝堂を再建したいと思っている。協力の方法は簡単で  
ある。煉瓦を一個5ユーロ以上で買うことである。

[www.ayudaalaiglesianecesitada.org](http://www.ayudaalaiglesianecesitada.org)を参照

ナイジェリア連邦共和国

人口；1億7千400万

宗教；イスラム教50%（北部）、キリスト教40%（南部に多い）

